連合会役員との連絡会及び第 7 回未来会議（全体会）　議事録

日時：令和 3 年 9 月 19 日（日）13:30～16:10

会場：ふれあいホール大集会室

出席者：（順不同、敬称略）

鹿ノ台自治連合会役員、顧問：11 名（以上　連合会役員との連絡会のみ）
須都　紘（会長）、伊藤　智子、梅本　慎二郎、中谷内　政之（以上　副会長）
鎌田　卓（事務局長）、鈴木　豊（書記・広報）
田口　信義、中世古　昭一、黒部　實、山地　祐輔、山田　勲、須田　健一、野津　拓也、黒田　勝行、谷猪　富貴子、山田　修、渡辺　昇
欠席：蔵田　かほり、福家　稔

配布資料：

連合会役員との連絡会
① 議題
② 鹿ノ台未来まちづくり会議（未来会議）活動報告
③ 鹿ノ台未来まちづくり：中期計画（案）骨子
④ 未来会議における転入促進の取組みについて
第 7 回未来会議（全体会）
⑤ 未来会議分科会の設置について

連合会役員との連絡会

須都　未来会議会長より

・未来会議ではこれまで中期的な課題に対し意見交換を行っており、その結果を中期計画（案）骨子としてまとめた。
・今後は 3 つの分科会を立ち上げて課題を深堀りし、中期計画を肉付けしていきたい。
・生駒市の「都市計画マスタープラン」によれば、鹿ノ台の人口は 2040 年に 5,500 人まで減少（2020 年比で▲23%）し、高齢化、少子化も進むとされている。
・多くの課題が見えているため、未来のまちづくりに向けて連合会等としっかりと連携して実行していきたい。
・本日は連合会役員との連絡会として、役員の皆さんにこれまでの活動結果を報告するとともに情報共有させていただきたい。

田口　連合会会長より

・未来会議は毎回、3 時間を超えて白熱した議論が行われている。
・その結果を 3 つのテーマに集約し、今後は分科会で検討を進めることになっている。
・本日はこれまでの検討結果の中間報告である。
・詳しい実行計画は年度末頃に提示される見込みであるが、その際は役員会の承認を求めることになる。その準備として本日の報告をよく聞いて理解していただき、活発に議論していただきたい。

自己紹介

・役割や活動歴などについて、各位より自己紹介した。

鹿ノ台未来まちづくり会議（未来会議）活動報告

設立総会

・3 月 27 日に未来会議構成員選考委員と未来会議構成員が一同に会した設立総会を開催し、鹿ノ台の中長期的な課題に取り組むための組織として未来会議が正式に発足した。
・９月までの暫定的な役員として、会長に須都さん、副会長に伊藤さん、梅本さん、中谷内さん、　事務局長に鎌田さん、書記・広報担当に鈴木さん、会計に蔵田さんが就任した。
・設立総会では下記の事項を決定した。

1. 全体会は月に一度開催（その前週に幹事会を開催）
2. 中期まちづくりビジョンを策定する
3. 課題抽出だけでなく事業計画の策定・実施まで担う
4. 課題の深掘りと実践のために後日、分科会を設置すること　など

中期まちづくりビジョンの提案（第 2 回・第 3 回）

・未来会議構成員 11 名から中期まちづくりビジョンとして、下記の課題が提起された。
　- 鹿ノ台の高齢化に伴う認知症やフレイル（虚弱）の増加
　- 地域人口の減少に伴う空き家問題や商店街の衰退
　- 自治会活動の担い手の不足
　- 少子化の進行
・これらの提案の概要は、「鹿ノ台未来まちづくり中期計画（案）骨子」に要約された。
・これらのうち、自治連合会・各自治会・各委員会・関連団体などですぐに取り組める課題と、未来会議で取り組むべき中長期的課題とを切り分けるべきか否かが議論された。また、子育て世代の転入促進に取り組む重要性なども議論された。
・住民の皆さんに未来会議で検討されている内容を周知し、意思決定プロセスを理解してもらうために、広報誌「みらい」を発行することを承認した。後日、全戸に回覧するとともに、連合会 Web にも掲載した。
・また、鹿ノ台ぐるぐるバス運行計画案に基づき、コミュニティバスの実証実験に向けた説

明を受けた。

鹿ノ台中期まちづくりビジョン・基本目標・具体的施策に関する議論（第４回・第５回）

・これまでの協議を踏まえ、まちづくりのビジョン・基本目標・具体的施策のたたき台が示され、議論が行われた。まちづくりの理念（まちの将来像）は、暫定的に「みんなでつくる　住みたくなるまち　鹿ノ台」とすることで合意した。
・未来会議構成員９名より、中期まちづくりの課題と対策に関する提案が行われた。これらの提案のいくつかは、「鹿ノ台未来まちづくり中期計画（案）骨子」に反映された。
・子育て世代の転入促進対策が急務であることが提起され、「転入促進対策調査部会」として活動を行うことが承認された。
・「官民連携まちなか再生推進事業」に助成金の申請を行うことに関して、説明と質疑が行われた。
・第 5 回以降、生駒市議会中尾議員より傍聴の申し出があり、オブザーバーとして出席している。

鹿ノ台未来まちづくり中期計画（案）骨子と分科会の提案（第６回）

・「鹿ノ台未来まちづくり中期計画（修正案）骨子」が検討された。５つの基本目標（①安全・安心・防災のまちづくり、②子育てしやすいまちづくり、③花と緑豊かな癒しのまちづくり、④高齢者にやさしい支え合いのまちづくり、⑤交流・賑わい・文化の香りのあるまちづくり）のうち、②と④と⑥について、分科会を設置することが提案された。
・「自治会組織の点検と再構築」については継続して検討することとし、「ICT など先端技術の取り込み活用」については、連合会傘下に発足する「IT 普及準備委員会」、「地域 ICT 連携準備委員会」に協力していくこととした。
・転入促進対策調査部会からは、ハウスメーカーへのヒアリング結果とその内容分析が報告されたほか、転入促進のためのチラシが提案され、承認された。連合会役員会の承認を経て、不動産事業者や近隣幼稚園・保育園などに配布することとした。

鹿ノ台未来まちづくり：中期計画（案）骨子

鹿ノ台の現状と課題

・鹿ノ台は主に大阪のベッドタウンとして開発され 40 数年が経過しているが、自治連合会の努力により多くの課題を克服し、現在の住みよいまちに発展してきた。一方、社会と時代の変化に伴って、下記の課題が顕著となっている。

1. 住民の高齢化進展に伴う課題
   - 2020 年時点で 75 歳以上 1,579 人（22.4%）、65 歳～74 歳：1,341 人（19.0%）
2. 少子化・人口減少による課題
   - 鹿ノ台総人口：2020 年 7,103 人→2040 年 5,459 人（▲23.1%）
3. 緑豊かな住環境への取組みへの参加意識・理解が不足

4.　自治連合会に比して単位自治会の活動が弱い
5.　ICT など先端技術の取り込み活用が不十分

・高齢化進展に伴う歩行困難者の増加に対してコミュニティバス実証運行が実現するなど、対策が進んでいる項目もあるが、未検討の課題も多い。
・これらの課題に対し、連合会や傘下の委員会などと足並みを揃えて取り組んでいきたい。

鹿ノ台未来まちづくり：理念（まちの将来像）

・様々な候補が出てきたなかで、「みんなでつくる　住みたくなるまち　鹿ノ台」とした。
・「みんなでつくる」は、自分たちのまちを自分たちでつくる主体性を示している。
・「住みたくなるまち」は、転入者にとって魅力のあるまちであるとともに、高齢者にとって住み続けたくなるまちであり、住んでいる住民の「第二のふるさと」となることを示している。
・生駒市は「総合計画」において「ベッドタウンから脱却し、多様な生き方や暮らしを支える場」となることをめざしており、この考え方とも一致している。

鹿ノ台未来まちづくり：基本目標

・下記の 5 点とした。

1.　安全・安心・防災のまちづくり
2.　子育てしやすいまちづくり
3.　花と緑豊かな癒しのまちづくり
4.　高齢者にやさしい支え合いのまちづくり
5.　交流・賑わい・文化の香りのあるまちづくり

鹿ノ台未来まちづくり：具体的な施策（案）

・基本目標を実現するための具体的な施策の例は、これまでの提案を受け下記のとおりである。基本目標の 5 項目のほか、横断的に検討が必要な 2 項目を追加している。

1.　安全・安心・防災のまちづくり
　（例）防犯カメラの設置拡充、街灯の保守・門灯の点灯による明るいまちづくり　など
2.　子育てしやすいまちづくり
　（例）転入促進の取組み、子どもの居場所・学びの場づくり　など
3.　花と緑豊かな癒しのまちづくり
　（例）周辺緑地の整備維持管理と緑化活動の推進、小中学校・幼保育園との連携による環境教育の推進　など
4.　高齢者にやさしい支え合いのまちづくり
　（例）地域公共交通網の構築（鹿ノ台コミバスの実証運行推進、自動運転等の社会実験への取組み検討）、ICT 活用による個別送迎システムの構築（電子的運行管理システムなど先端技術の活用、MaaS 構想導入の検討）　など
5.　交流・賑わい・文化の香りのあるまちづくり

（例）地域の交流拠点の全体的・統一的構想の策定（多目的ホール、各集会所の建て替え資金の積立を含む）、いきいきホール多目的ホールの建設推進（太陽光パネルの設置、非常電源の確保を含む）　など

6. ICT 技術の活用・普及

（例）スマートタウン構想の構築、IT 導入による自治会活動の効率化　など

7. 鹿ノ台自治会組織の課題検証と再構築

（例）自治連合会と単位自治会の役割・関係の点検、単位自治会の在り方・活動の点検など

今後の取組み

・基本目標 5 項目のうち「子育てしやすいまちづくり」、「高齢者にやさしい支え合いのまちづくり」、「交流・賑わい・文化の香りのあるまちづくり」について分科会を立ち上げ、課題の深堀りを進め、中期計画を肉付けしていきたい。

未来会議における転入促進の取組みについて

・我が国では今後、急激な人口減少が想定されており、鹿ノ台も例外ではない。鹿ノ台が今後も活気ある住み良いまちであり続けるためには、積極的な転入促進の取組みが急務である。

基本方針

1. 「鹿ノ台を選んだ理由」（鹿ノ台の強み）と、鹿ノ台へ転入しなかった人が「鹿ノ台を選ばなかった理由」（鹿ノ台の弱み）を把握する。
2. 「鹿ノ台の強み」をしっかり PR し、より多くの人に鹿ノ台を選んでもらう。
3. 「鹿ノ台の弱み」は、対応の必要がある項目があれば中長期的に改善し、その結果を PR に盛り込む。
4. これらの強み／弱みを客観的に把握するため、鹿ノ台を営業範囲とする不動産事業者及びハウスメーカーにヒアリングを実施する。

ヒアリングの結果

・直近で行った不動産事業者ヒアリングの結果を、貴重なナマの声として紹介した。

・これまでのヒアリングの結果を総括すると、主な転入候補者像は、下記のとおりであった。

- 共働きで「小さな子どもの居る子育て世帯」 or 「子育てをしようとしている世帯」
- 「もともと鹿ノ台に縁のある人」（＝鹿ノ台しか選ばない人） or 「大阪から郊外の戸建てを探すなかで、始発駅かつ大阪市内直通の学研奈良登美ケ丘駅の利便性に惹かれて、他の地域と比較して鹿ノ台を選択する人」（＝こちらに対策が必要）

・転入候補者の生の声から、「鹿ノ台の強み」は下記のとおりであった。

(1) 便利なまち：始発駅に近い、スーパー／商店街／医療機関が揃っている　など

(2) 緑豊かで静かな住環境：1 種住専、公園、整備された緑地　など

(3)　楽しいイベント：納涼祭（花火）、自治会のイベント・活動　など
(4)　生駒市：生駒市への好印象、市の子育て支援施策

・転入候補者の生の声から、「鹿ノ台の弱み」は下記のとおりであった。
(1)　知名度が低い：大阪在住者から見ると鹿ノ台の知名度は低く、価格とのバランスを考慮した結果のセカンドチョイスになっている。鹿ノ台の良さを知る接点もない。
(2)　住宅しかない、接道面に高低差あり、商店街に活気がなく古くて暗い、家屋も古い、空き家放置、虫が多い、区画あたりの土地が広い　など

PR の方法

・「鹿ノ台の強み」4 点に加え、「住んで初めてわかる鹿ノ台の良さ」として「5. 安心・安全なまち」、「6. 教育がしやすいまち」の 6 点を重点的に PR する。
・「子育てするなら、鹿ノ台。」のキャッチフレーズでチラシを作成し、転入候補者が訪れる場所（不動産営業所や幼保育園など）に配布する。
・子育て世代に鹿ノ台の魅力をアピールする Web サイトを立ち上げる。

今後、対応すべき課題（案）

・「鹿ノ台の弱み」について、対応有無を含め中長期で対応していく。
- 鹿ノ台の知名度の向上：人を呼び込むイベント開催　など
- 鹿ノ台の活性化：商店街の活性化、まちの人が集う仕組み　など

・現に鹿ノ台に住んでいる子育て世帯の満足度を向上させる。
- ニーズを把握し、可能な範囲で対応することで子育て世代の満足度を向上（その成果が情報発信され、転入促進が進む効果も期待）

意見交換

・転入促進のチラシがすでに完成している。スピード感があるのは良いと思う。
・（田口連合会会長）未来会議は、少しでも実行できる計画を作成する方向で進んでもらいたい。これからも連合会役員会で未来会議の取組みを説明するので、連合会役員の皆さんも未来会議の動向を把握しておいてください。

第 7 回未来会議（全体会議）

・連合会役員が退席し、未来会議構成員のみで引き続き未来会議が開催された。

未来会議役員の暫定任期終了に伴う改選（留任を含む）

・現在の役員は 6 ヶ月間の期間限定の役員で、9 月末で暫定の任期が終了するが、引き続き

現在の体制で進めることを提案する。ただし中谷内副会長は、他の地域活動と重なって多忙のため、辞任したいと申し出があった。

→ 異議なく承認された。

・黒部さんに副会長になってもらったらどうか。

→ 異議なく承認された。

未来会議分科会の設置について

・前回までに説明したとおり、深堀りの検討が必要なテーマに絞って分科会を設置したい。

・参加する分科会は、各構成員の希望で決めている。

・各分科会でリーダー（必要があればサブリーダーも）を決めてもらいたい。分科会の運営方法は各分科会に任せる。

・分科会には、その分野に詳しい知見・経験をもつ未来会議構成員以外の「専門委員」が参加できる。

・検討の進捗状況を毎月の全体会議に報告してもらいたい。概ね半年程度を目処に検討を進め、その結果を全体会議で報告してもらいたい。

メガソーラーについて

・分科会ではないが、メガソーラーについては山田修さんが中心となり、田口さんもサポートして検討を続けている。

・すでに「市民エネルギー生駒」や「生駒市民パワー」などと協議をしている。現地も見てもらったが、規制があるため、当初に想定していた運動公園にソーラーは設置できないということがわかってきた。

・いきいきホール屋上を次の候補地と考えているが、発電量が少量となり、買取価格も低下しているなかで初期投資をどのように確保するか、どのように電力を供給するかなど、多くの課題がある。

→ メガソーラーとして場所が確保されていることが前提となると思う。発電量が少ないということであれば、未来会議のテーマとなるか疑問がある。

・（須都会長）少人数での検討を継続し、報告してもらうことにする。

分科会に対する意見交換

・分科会で課題を出すということであるが、本来であれば未来会議全体で課題を抽出して優先順位をつけたあと、作業部会として分科会が事業化の検討を行うべきであると思う。

→ 全体会議全員で議論していては、なかなか課題抽出、優先順位付けまで至らないのが現状。分科会で深堀りして課題をしっかり抽出する方がスムーズである。

・すでにコミュニティバスなど事業化が進んでいる項目がある。これらの取り組みの主体と連携することで事業化のイメージがしっかり持てると思う。

・費用の調達については、ECOKA 委員会が先駆的に取り組んでいる事例から行政の制度を活用する手法を学んでいけばよい。

・分科会を横断するテーマとして、資金調達や情報発信があるのではないか。
→ いろいろと課題は見えてくると思うが、まずはスタートすることが大切。工程表を作ることが事業計画に繋がっていく。
・分科会に専門委員が入ってもらう際に、手続きは必要なのか。
→ 委嘱書を作成し、全体会議で承認を受けてもらいたい。
・分科会参加者だけではマンパワーが不足するので、専門委員という位置づけではない実務的な協力者の確保や既存の委員会との協同が必要。
→ これらについては各分科会で判断し動いてもらって差し支えない。
・既存の委員会と同じ範囲の課題を扱うことで屋上屋になることを危惧している。
→ 関係する委員会の所掌範囲を一覧表にしてみると、重複している項目と、どの委員会でも扱っていない項目があることが見えてくるのではないか。重複している項目は連合会とも調整する一方で、どの委員会でも扱っていない項目をどうしていくかを検討すべきである。
・未来会議の進め方をマニュアル化しておく必要があるのではないか。
→ 最初から進め方をすべて定義することは無理がある。活動を続けていくうちにマニュアル化が進むと考える。必要に応じて会則を変えることもあり得ると思う。
・（須都会長）次回以降の未来会議では、前半を全体会議として分科会の報告を受け、後半は各分科会に分かれて検討することにする。各分科会において、リーダー決めや今後の進め方などを協議し、次回の未来会議に報告してください。

次回

日時

10 月 24 日（日）13:30 – 16:00
第 4 日曜日であることに注意！
「東西」の構成員及び幹事は 13:15 集合

会場

西集会所

主な議題（案）

1. 各分科会からの報告
2. その他

以上